
山梨大学教育学部附属教育実践総合センター

センターだより 第149号 (通巻第216号)

2017年2月28日 発行
山梨大学教育学部
附属教育実践総合センター
TEL 055-220-8325, FAX 055-220-8790
E-mail: jissen@ml.yamanashi.ac.jp
URL: <http://www.cer.yamanashi.ac.jp/>

■ 第4回連携・教育研究会（山梨県総合教育センター研究大会）のご報告

山梨県総合教育センター研究大会が、2月23日（木）に山梨県総合教育センターにて開催されました。この大会は、第4回連携・教育研究会を兼ねており、毎年県内外の小・中・高・特別支援の各学校の先生方はもちろん、大勢の教育関係者が参加し、山梨県総合教育センターの一年間の研究の成果等について学ぶよい機会になっています。

大学側からは、来賓として、中村和彦教育学部長、松森靖夫附属教育実践総合センター長、アドバイザー（ラウンドテーブルでのファシリテーター）として、教育支援科学講座の鳥海順子教授、教育実践創成講座の服部一秀教授、言語文化教育講座の田中武夫教授、芸術文化教育講座の大内邦靖准教授、生活社会教育講座の志村結美准教授、附属教育実践総合センターの中澤勇三客員教授、窪島紀人客員教授、小林大教授、藤田博康教授、成田雅博准教授、一瀬孝仁准教授の13名が参加しました。

全体研究テーマ「やまなし 学びの未来」を受けて、基調提案、特別講演、そしてラウンドテーブルでの提案・協議が小グループを単位に進められました。今年度は午後からの半日開催となり短時間ではありましたが、参加者が主体的に学ぶ機会、場となり大変有意義な時間を過ごすことができました。

特別講演会では、「次期学習指導要領の改訂の考え方」をテーマに、白梅学園大学教授の無藤隆先生による講演が行われました。今、学校現場が抱える喫緊の課題の一つである次期学習指導要領への取り組みを柱に、各学校における児童生徒の実態を踏まえたカリキュラムづくりや求められる資質・能力を意識した授業づくりのポイント等、多岐にわたり多くの示唆に富む話を聞くことができました。



ラウンドテーブルでは、各グループ6～7名の小グループに分かれ、小・中・高・特別支援の先生方が校種間の壁を越え、各校での実践の取り組みや課題等について出し合い、熱心に討議を進めていました。その他のグループ内討議においても現在の教育課題に焦点を当てた提案がされ、一年間の研究の成果と校種間交流の意義を感じる有意義な時間になりました。

■ 山梨大学教師塾事業「初任者元気アップ講座」を開催しました

2月13日（月）に教員採用試験に晴れて合格した学生、将来教員を希望している学生を対象に山梨大学教師塾事業「初任者元気アップ講座」を開催しました。当日は後期終了後の卒論・修論発表等とも重なる忙しい中、志高い16名の学生の参加があり、有意義な時間を過ごすことができました。

これまでに教育実習や学生ボランティアの経験しかない学生も4月からは一人前の教師として学級を担任し、実際に子どもたちの前に立ち、学級経営をはじめ授業実践を積み上げていかなければなりません。初任者とは言え、現場ではベテランの教師と同じことが求められます。

今できることは「現場を少しでも知ること」です。この日は、講師として現場の3名の先生方をお迎えし、学校現場の様子や教師としてのあんなこと、こんなことについて気楽に気軽に話を聞き討議することができました。



講師としてお迎えした鶴田真樹先生（小学校教諭）、近藤千佳先生（中学校教諭）、永田真一郎先生（高等学校教諭）の三人の先生方には、勤務されている学校の様子やご自身の経験をもとに、初任者の学校での動き、部活動や職員室での人間関係づくり、授業づくりなど多岐にわたりお話しいただきました。

初任者には「若さ」という武器があること、困ったことや悩みがあったら迷わず相談すること、子どもや先輩の先生方、また保護者から学ぶという謙虚な姿勢をもつことなど初任者としての心構えを学ぶことができました。心配や不安を少し解消することができた時間になったと思います。

◆参加者アンケートより（抜粋）

- ・先生たちが自身の体験をもとにお話してくださったので、学校現場ではどのようなことが大切なのか、どんな点に留意すればよいのか具体的にイメージすることができた。どの先生の話にも、“学び続ける教師”“子どもを第一に考える”という視点が含まれていたと思う。初任は大変！ということでしたが、今日お話いただいたこの2点は、「教師を今後続けていく上でずっと大切にしたいと思う。
- ・小、中、高の各視点からお話を聞けるのはとても貴重であった。「あいさつ」「まねる」「聞く」の3点はどの校種でも大事だと感じたので、現場に立つときには生かしていきたい。
- ・教師として、社会人として、生の声を伺うことができ、2年後に社会に出る身としてとても勉強になった。また、教員をめざす私は、ここ最近の学校情報にひどく不安になっており、今日、この講座でお話を伺えたことで、先生という職業に改めて希望を持つことができた。
- ・比較的短い時間での3人の発表という形式であり、集中も続きよかった。ユーモアを交えぶっちゃんけたような内部のお話も初めて聞くような話が多く興味をもてた。先生方からいろいろな視点を聞けてよかった。

■ 第 90 回国立大学教育実践研究関連センター協議会のご報告

センター協議会総会及び部門会議が、2月14日（火）に東京学芸大学で開催されました。山梨大学からは、小林教授、一瀬准教授、成田准教授の3名が参加しました。

総会においては、議事録の確認の後、2015年度会計収支報告、2016年度会計中間報告、2017年度予算について、審議され、原案が承認されました。また、「教育臨床」「教育実践・教師教育」「教育工学・情報教育」の3部門からの報告がありました。

次に、本センター協議会規約改正について審議されました。これは、全国で改組されたセンターが相次ぎ、現状のセンター協議会の規約では本協議会会員としてとどまることが困難なセンターが多くなっている現状がある一方、改組されセンター所属ではなくなった教員で教員養成、教員研修、教育実践研究に深く携わっている者が、本協議会に引き続き本協議会会員として参加することに意義があることから、センター協議会の行う事業を拡充し、センターに所属しない個人会員の制度を新設するものです。この改正案は原案通り承認されました。

その後、2017-2018年度の新役員として、会長に信州大学の東原義訓教授、会計監査に上越教育大学の石野正彦教授と岐阜大学の村瀬康一郎教授が承認されました。

午後からは、各大学からの情報交換や、今後のセンター協議会のあり方について協議が行われ、3部門に分かれての研究討議、情報交換が行われました。

なお、成田准教授は、2015-2016年度の関東甲信越地区の常任幹事・会計監査として、前日2月13日（月）に開かれた役員会にも出席しました。

次回第91回総会は、島根大学で開催される予定です。

■ 「地域連携子どもと親と教師のための教育相談」・教育相談室に関するお知らせ

相談スタッフについて新規に登録された方も含め、来年度に向けてHPの相談スタッフ一覧を更新します。新規登録の追加や相談日時の変更等ありましたら、3月15日頃までに教育実践総合センター事務室まで電話、メールなどでお申し出ください。

■ 教育相談室に関するお知らせ

「教育相談室（L-428）」及び相談室の備品をどうぞご利用ください

「教育相談室」のご利用に際しましては、事前に附属教育実践総合センター事務室（J号館4F）にて空き状況を確認の上、ご予約ください。火曜日は附属教育実践総合センターが優先的に使用させていただきます。鍵はJ号館1階支援課にあります。利用された場合には、相談室内に置かれた使用簿及び報告書の記載をお願いします。教育相談室の心理検査やソーシャルスキルを高める児童・生徒用のゲームなど備品も貸し出しております。借りる際には必ず使用ノートにご記入をお願いします。

これまでのセンターだよりの一部は、 <http://www.cer.yamanashi.ac.jp/centerdayori.html> で見ることができます。